

使徒

知っておきたいキリスト教のことば (89)

「使徒」という言葉の背景には、旧約聖書に出てくる法的用語である「使者」があると考えられています。この「使者」とは、特定の任務を持ち、権威を与えられていた人たちのことです。ただしそこに宣教的な意味はあまりなく、たとえば預言者のことを「神の使者」と呼ぶようなことはなかったようです。



そして新約聖書の中では、「遣わされた者」、「教会（共同体）の代表」、「福音の宣教者」といった意味を持つようになります。聖書の中で使徒と呼ばれている人はイエス様自身から遣わされた12使徒の他に、新たに宣教の地を開拓した人たち（パウロ、バルナバ、ヤコブなど）がいます。彼らは特別な使命をもって遣わされた人たちだと考えられ、特別視されていきました。ただしステファノやフィリポ、アポロやテモテなどは使徒と呼ばれていなかったようです。

パウロは自分のことを「使徒」と呼んでいます。十字架前のイエス様には直接出会ってはいませんが、ダマスコでの回心のときに復活のイエス様に出会ったことが、彼の宣教の根底にあるからです。

そのパウロはその手紙の中で、使徒の定義を以下のように定めています。

- ① キリストから（あるいは復活の主から）直接召された人
- ② 福音を携えた使者
- ③ 異邦人への宣教の使命をもち、そのことで苦難を受ける人
- ④ 教会において、一つの役割を果たすに過ぎない者

パウロは自分を、最後の使徒と呼びました。しかしわたしたちもまた復活のイエス様に会い、召されています。だからわたしたちも「遣わされた者」として使徒信経を唱え、イエス様に従い歩いていくのです。

次回は「主」です。お楽しみに。